

まとめ

今回の隠岐での観察は訪れた水体数が限られたものであったので、詳しい考察は今後の課題であるが、松江近辺で観察した任意の45のため池の水生植物相との違いで注目されるのは、今回の11の池では松江近辺で19ヶ所(頻度42%)で出現したタヌキモ属がただ一ヶ所のみでしか出現しなかったこと、および松江近辺では14ヶ所に出現したジュンサイと10ヶ所に出現したヒツジグサが全く見られなかったことであろう。これがただ単にpH値に依存しているのか、あるいは地史的な問題も含んでいるのかについて、今後他の水体の観察を行って、考察してゆきたいと考えている。

最後に、コサンカクイとシカクイの同定は島根大学の杵村喜則先生にいただいたこと、および現地では西郷中学校の小川俊行先生に車の便宜を計っていただいたことを感謝します。また、隠岐の生物に関しては野津

(1983)によって本が書かれていることを付記する。

文 献

- 西上一義・杉村喜則(1978): 隠岐島油井地区の植生。山陰文研紀要 18: 13-23.
- ・———(1981): 隠岐島都万地区の植生。山陰文研紀要 21: 1-13.
- 大井次三郎(1975): 日本植物誌。顕花編。至文堂。1582p.
- 北村四郎・村田 源・小山鉄夫(1964): 原色日本植物図鑑。草本編Ⅲ。保育社。464p.
- 国井秀伸・国井加代子(1985): 松江市近辺の水草の分布に関する予報。植物と自然 19(11):31-34.
- 杵村喜則・西上一義(1977): 油井ノ池の浮島植生。山陰文研紀要 17: 1-11.
- 野津 大(1983): 隠岐の生物。読売新聞松江支局。245p.
- 。消えゆく巨大水草オニバス。趣味の山野草 No.62 (1985. 9) : 34-37.
- 。水草研究会。生物科学ニュース No.163:4-5
- 。水草研究会。植物と自然 19(12) : 26-27.
- 国井秀伸・国井加代子。松江市近辺の水草の分布に関する予報。植物と自然 19(11) : 31-34.
- 小島裕子・榎本 敬。百間川の植物とその移りかわり。植物と自然 19(12) : 19-22.
- 小宮定志。北海道にムラサキミミカキグサを訪ねて。食虫植物研究会誌 36: 137-142.
- 田中 肇。オモダカの虫媒受粉。雑草研究 30: 155-156.
- 外山雅寛。北海道樺戸郡月形町よりムラサキミミカキグサの新分布記録。食虫植物研究会誌 36:118-121.
- 。北海道におけるムラサキミミカキグサとホザキノミミカキグサの生活史について。同上 36: 121-130.
- 。北海道石狩川下流域の沼に分布するタヌキモ科植物。同上 36: 130-137.
- 新見 正。水草を土壌中に混合する事による汚水の脱窒工法について。土壌浄化法研究 No.2:1-2 [水草研究会報 No.13の再録]。(次号に続く)
- 文献リスト<1985-(2)>
- 青山 勲・西崎日佐夫・八木正一。ホテイアオイを用いた水質浄化の評価。ホテイアオイ研Newsletter No.7: 2-6.
- 今岡 務・寺西靖治。ホテイアオイの栄養塩吸収能を利用した水質浄化に関する研究。水質汚濁研究 8(5): 52-60.
- 岩崎桂三。ホタルイ類水田雑草の防除に関する生理生態学的研究。雑草研究 30: 93-106.
- 氏家淳雄・栗田秀男・峰村 宏・矢島久美子。尾瀬沼における帰化植物「コカナダモ」の侵入について。群馬県衛生公害研年報 No.17:152-157.
- 大隈光善・千蔵昭二。筑後川下流域のクリーク雑草「チクゴスズメノヒエ」の生態と防除。第6報。法面への引き上げと除草剤による防除。雑草研究 30: 208-212.
- 岡村大一郎。ホテイアオイとし尿混合メタン発酵について。ホテイアオイ研Newsletter No.7: 6.
- 沖 陽子。フロリダのホテイアオイに関する実態報告。ホテイアオイ研Newsletter No.7: 10-11.
- 角野康郎。兵庫県東播磨地方のため池における「チクゴスズメノヒエ」の分布-類似した生態的地位を占めるイネ科水生雑草3種との比較。雑草研究 30: 47-50.